

## (2) 治水対策について

### 想定課題

国会等移転に伴う都市開発により地域の保水力の低下が懸念される。特に、平成10年8月の未曾有の集中豪雨の経験からすると、新都市にふさわしい治水対策が必要と思うがどうか。

### 対応方向

平成10年8月末の豪雨は、日雨量607ミリの4,000年に一度の確率であり水文学的に見ても極めて希な現象の集中豪雨により、余笹川流域を中心に多大な被害をもたらしましたが、現在の改良復旧事業等により整備復旧が進んでいます。

なお、余笹川の流域は、那須地域の北東部の県境付近に位置し、今回の災害が国政都市の候補地と直接関係するものではありませんが、この地域においても、防災面に十分配慮することにより、段階的なクラスターの配置も可能であると考えられます。

また、新都市周辺の治水を受け持つ蛇尾川、篤川流域の河川については、今回の災害を教訓とした新都市にふさわしい治水対策を講じる必要があり、今後の都市づくりに合わせて、河川改修や洪水調整池の整備等の対策を講じていくことになると考えられます。

国会等が移転した場合、小規模分散型の都市形態となりますが、森林、農地等の土地利用が一定規模転換されると考えられます。このため都市開発に伴う水害を防止し、環境共生型都市づくりで目指す水資源の有効利用と循環利用を図る観点から、利水や環境にも配慮した総合的な治水対策について検討していく必要があります。

その検討に当たっては、

- ・ 水源のかん養、災害の防止のための水源地域における森林の保全・整備
- ・ 新都市の開発に当たっての総合的な土地利用計画による無秩序な市街化の防止、既存樹林の保全・積極的な緑化・透水性舗装の採用
- ・ 新都市の発展や成熟に対応しての調整池や雨水貯留施設等の整備など

河川流域の持つ保水機能を維持し、雨水の流出増加を極力抑制しながら雨水対策や防災対策、水循環と一体となった計画的な都市づくりを行っていくことが必要と考えています。



最大 1 時間雨量及び日雨量の記録

日最大 1 時間降水量 (mm)

観測所名	極値	月日		従来の 8 月極値		従来の通年の極値	
那 須	90	8月27日	*	44	1996年8月17日	同左	
八方が原	58	8月27日		47	1983年8月9日		
黒 磯	84	8月27日	*	54	1988年8月21日	同左	
塩 谷	62	8月27日	*	45	1984年8月13日	59	1989年7月26日
足 利	58	8月30日		52	1991年8月12日		

日降水量 (mm)

観測所名	極値	月日		従来の 8 月極値		従来の通年の極値	
那 須	607	8月27日	*	203	1989年8月27日	同左	
八方が原	409	8月27日	*	244	1990年8月10日	254	1986年9月3日
黒 磯	351	8月27日	*	137	1989年8月27日	同左	
五十里	215	8月27日	*	194	1981年8月22日	同左	
大田原	211	8月27日	*	146	1986年8月4日	153	1987年9月10日
塩 谷	247	8月27日	*	150	1991年8月20日	152	1982年9月12日
鹿 沼	158	8月30日	*	152	1991年8月20日	同左	
足 利	175	8月30日	*	147	1986年8月4日	162	1982年9月12日

(統計開始 : 1979年)

\*印 通年の極値も同時に更新したことを意味する。

